

平成27年 適期田植え対策

日本晴・コシヒカリ・あきさかりの種子配布について

JA越前たけふでは、コシヒカリなどの高温障害対策として、5月中下旬の適期田植えにあわせた種子の配布を行っています。

昨年は消費税増税の対応として3月中にコシヒカリ等の種子を配布させていただきましたが、早く播種・田植えされたコシヒカリは品質が低下したことから、適期田植え時期を遵守頂きますようお願い申し上げます。

平成26年産コシヒカリ 移植時期試験結果(外観品質)

試験内容	移植日	整粒歩合 (%)	乳白粒 (%)	基部未熟 (%)	腹白 (%)	胸割粒 (%)
早植え	5月3日	68.9	12.2	7.9	1.2	3.3
遅植え	5月24日	79.8	6.5	3.1	1.1	0.8

そのためには浸種(水に浸ける)日を指標のとおり設定し、催芽、播種、育苗を行う必要があります。

■ 浸種・播種・田植え時期の遵守について

地帯	品種名	種子配布日	浸種日	催芽日	播種日	田植時期
全域	ハナエチゼン	3月19日	3月24日	4月3日	4月5日	5月2日
全域 (平地地を中心)	日本晴	4月3日	4月7日	4月17日	4月19日	5月9日
山間地	コシヒカリ あきさかり	4月10日	4月14日	4月24日	4月26日	5月16日
平地地		4月17日	4月21日	4月30日	5月2日	5月23日

山間地コシヒカリの浸種は4月14日頃

平地地コシヒカリの浸種は4月21日頃

品質向上のため、ご理解ご協力をよろしくお願い致します



のんびり種まき、ゆっくり田植え

種まきと、はやる気持ちを我慢して、五月中下旬田植えにあわせよう

苗半作 適期播種で健苗育成を

□ 育苗作業の事前計画をしっかり立てましょう □

■ 育苗作業にあせりは禁物 ～早すぎる播種は危険がいっぱい～

- ① 播種後の低温による育苗障害
- ② 水温が低すぎると籾の活性が低く、芽の伸びも悪くなる
- ③ 出穂が早まり、高温下での登熟により品質が低下



■ 育苗作業について ～育苗時の温度目安～

生育時期	苗 丈		温度管理		処理日
			昼間	夜間	
出芽期	出芽長	0.5~1 cm	28~30℃	28~30℃	2~3 日
緑化期	第一葉鞘長	3.5~4 cm	20~30℃	10~15℃	2~4 日
硬化期	苗 丈	12 cm	15~20℃	10℃以上	13~15 日



深耕15cmで根域の拡大を！！

近年は、耕深が浅くなったり、有機物や土づくり資材の施用が減少しています。

これらの要因が重なって、水稻の根群形成が浅くなり、貧弱となり、大きな気象変動にも耐えられず、稲体の活力を維持できなくなっていると考えられます。

○トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くし、現状よりプラス3cmの作土深15cmを確保しましょう。

○深耕で作土を増加させることにより、根張りや根の活力を向上させ倒伏や枯れ上がりを防ぎましょう。

おいしい、登熟の良い米づくりを目指すためには、収穫直前まで稲体の活力を維持する必要があり、深耕は根を十分に張らせ、健全に保つことにつながります。

□ 耕深の違いによる根域の違い □

